

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあつては名称) 水島エルエヌジー株式会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒712-8071 倉敷市水島海岸通4丁目2番地	
本票作成	部署名：オペレーション・技術部				
主たる業種	分類コード	34	業種名：ガス業		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・LNGの受入、貯蔵、気化およびガス送出事業（年間取扱量100万t） ・基地増設工事が完了し、平成23年4月より稼働開始 				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	水島LNG基地		倉敷市水島海岸通4丁目2番地	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成28年度)	(平成29)年度排出量	目標年度(平成31年度)
	21,442 t CO ₂	20,074 t CO ₂	18,147 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成29)年度排出量
	①	水島LNG基地	20,074 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：	平成29年度	～	平成31年度	(3箇年度)
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(29)年度削減実績	目標削減率	目標達成	
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	4.9 %	3.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	<input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 ガス製造量	原単位当たり排出量		
		基準年度	(29)年度	目標年度
		18.597 t CO ₂ /(百万NM ³)	17.686 t CO ₂ /(百万NM ³)	18.039 t CO ₂ /(百万NM ³)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成29年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

平成29年度は、以下の理由により削減目標を達成した。

- ・エネルギー原単位の改善
平成29年度のエネルギー原単位は平成28年度対比99.3%であり、0.7%良化した。
- ・単位消費電力量に対するCO₂排出量(排出係数)の低下
平成28年度は0.000513(tCO₂/kWh)であったが、平成29年度は0.000491(tCO₂/kWh)へ低下した。
なお、当該係数はJXTGエネルギー株式会社の数値を用いている。

【推進体制】

- ・省エネ法に基づくエネルギー管理体制のもと、エネルギー使用状況を確認している。
- ・当社はエネルギー管理を含めた運転保守管理業務を J X T G エネルギー(株)へ業務委託を行っている。なお、委託先である J X T G エネルギー(株)は1999年にISO14001を認証取得している。
- ・関係者による省エネを目的とした会議を定期的開催し、積極的に新アイテム発掘を行っている。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
水島LNG基地	<p>(平成29年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LNG受入時のタンクミキシング用ポンプの運転方法見直し LNG船よりLNGを受け入れる際、LNG船の密度がLNGタンク中の密度より高い場合、LNGタンクが層化することを懸念し、プライマリーLNGポンプを48時間起動していた。電気使用量の削減を目的として、ミキシングの終了判定をプライマリーLNGポンプ運転時間(48時間運転)からタンク内LNG性状(密度差および温度差)へ変更することで、プライマリーLNGポンプ運転時間を24時間短縮出来た。 ・LNG気化器の運転状況に応じた海水ポンプ運転方法の見直し 稼働中LNG気化器について、その負荷によらず海水ポンプは一定稼働であったが、LNG気化器の負荷に応じて海水ポンプの負荷を低下することで電力使用量の低下を図った。平成29年度より通年の本格運用を開始した。 ・プライマリーLNGポンプ負荷計算方法の見直し 毎朝、LNGローリーの出荷用のためプライマリーLNGポンプを起動している。これまでは実際の出荷量に関わらず、最大出荷量を想定してプライマリーLNGポンプを起動していたが、電気使用量の削減を目的として、実際の出荷量見合いに運用を変更した。結果、プライマリーLNGポンプの起動時間を短縮出来た。 ・海水ポンプのフルグライドコーティング(ステップ1) 海水ポンプ1台について、インペラーおよびケーシングをコーティングすることで、摩擦抵抗を軽減し、電気消費量の低下を図った。 <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水ポンプのフルグライドコーティング(ステップ2) 海水ポンプ3台について、インペラーおよびケーシングをコーティングすることで、摩擦抵抗を軽減し、電気消費量の低下を図る。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

--